

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	無
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	しゃかいふくしほうじんとつとききん 社会福祉法人トット基金		
代表者職・氏名	理事長 黒柳徹子		
制作団体所在地	〒 141-0033		
	東京都品川区西品川2-2-16		
電話番号	03-3779-0233	FAX番号	03-3779-0206
ふりがな 公演団体名	にほんろうしゃげきだん 日本ろう者劇団		
代表者職・氏名	江副悟史		
公演団体所在地	〒 141-0033		
	東京都品川区西品川2-2-16		
制作団体 設立年月	昭和55年 4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 黒柳徹子 理事8名 評議員10名 監事2名	劇団員 22名 劇団代表 江副悟史 顧問 井崎哲也 加入の条件 ろう者または手話のできる18歳以上の男女	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	三宅近成
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池紀子

制作団体沿革	昭和55年 ろう者による「東京ろう演劇サークル」を発足。 昭和56年 黒柳徹子より「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領し、社会福祉法人トット基金が設立される。 昭和57年 トット基金の付帯劇団となり「日本ろう者劇団」と改称 昭和58年 イタリアで開催された「世界ろう者会議」で手話狂言を初披露 昭和62年 新しいジャンルの演劇を作ったとして文化庁芸術祭賞を受賞(手話狂言) 平成12年 創作視覚演劇「カスパー」において主演の池田大輔が芸術祭新人賞を受賞 平成14年 内閣総理大臣表彰受章 平成27年 ローマおよびパリにおいて国際手話で手話狂言の公演を行う。(文化庁国際芸術交流支援事業) 令和元年 首相官邸で手話狂言を披露(安倍総理と障害者との集い) 令和2年 国立能楽堂主催公演として「手話狂言」を上演			
学校等における公演実績	1988年度 品川区三ツ木小学校公演(PTA主催) 品川区立大崎中学校体育館 演目「二人袴」「しびり」 2005年度 田園調布雙葉中学校 講堂 演目「附子」「梟山伏」 2008年度 田園調布雙葉中学校 講堂(演目同じ) 2009年度 長野県小諸市芦原中学校 演目「梟山伏」「附子」 2011年度 田園調布雙葉中学校 演目「梟山伏」「附子」 2014年度 同上 2017年度 同上 2021年度 同上			
特別支援学校における公演実績	2017年度 中央ろう学校(東京都杉並区)、坂戸ろう学園(埼玉県坂戸市)、大宮ろう学園(埼玉県さいたま市)、明晴学園(東京都品川区) 2018年度 旭川ろう学校、中央ろう学校(東京都杉並区)、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園(埼玉県)、明晴学園(東京都品川区) 2019年度 中央ろう学校(東京都杉並区)、葛飾ろう学校(東京都葛飾区)、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園(埼玉県)、明晴学園(東京都品川区) 2020年度 中央ろう学校 ワークショップ7回(12月～2月)、茨城県立水戸ろう学校 手話狂言「附子」			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/TbVnBYk12A8	
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 日本ろう者劇団 】

対象	○	小学生(低学年)	○	中学生		
	○	小学生(中学年)				
	○	小学生(高学年)				
企画名	楽しく手話を学ぼう 手話狂言「附子」					
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	◆第一部 手話狂言「附子」 ・お話:狂言の見方、手話狂言の魅力、「附子」のあらすじなどを、ろう者劇団の俳優と狂言師によって、実演を交えながら、手話と言葉でわかりやすくお話しします。(20分) ・手話狂言「附子」の上演:ろう者劇団の俳優による手話の演技に、狂言師が言葉をあてて、聞こえる人も聞こえないひとと同じように鑑賞できます。(25分) 休憩(10分) ◆第二部 手話狂言ワークショップ ・ワークショップ:狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。(25分) ・Q&Aコーナー:生徒からの質問に出演者が答えます。(10分) 演出:三宅右近/構成・監修・振付:三宅近成 公演時間(90 分)					
著作権	○	制作団体が所有	○	制作団体以外が所有する事項が含まれる	取得済	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	手話狂言「附子」(別添あり) ◆登場人物 太郎冠者、次郎冠者、主人 ◆あらすじ 用事で外出する主人が、太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけます。そして手桶を持ち出し、この中に「附子」が入っていて、この方から吹く風にあたっても滅却する(死んでしまう)ほどの猛毒だから気をつける、といいます。 主人の出した後、二人は「附子」に興味津々。恐いもの見たさで、毒氣に当たらないよう扇であおぎながら「附子」に近づき、桶の蓋を取ってみると、なかには黒いドロリとしたものが入っています。これを見た太郎冠者は、「旨そうだから食べてみよう」と言い出し、次郎冠者が止めるのも聞かず食べてしまいます。 実はこれは砂糖でした。当時砂糖は大変な高級品。主人は二人を砂糖に近づけないように、附子だと嘘をついていたのです。 砂糖とわかった二人は、奪いようとしてすつかり平らげて桶を空にしてしまいます。さて困ったことに、砂糖を食べってしまった言い訳を考えなければなりません。 そこで二人は何を思ったか、主人の大切にしている掛け軸を破り、大天目(天目茶碗)を割ってしまいます。はたして二人はどんな言い訳をするのでしょうか? ◆みどころ ろう者の俳優による手話の演技に、狂言師が声を当てることによって、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しめる、「手話狂言」の代表劇な演目の一つです。 会場に設置した能舞台の上で、したたかに、たくましく生きる中世の人物像が笑いとともに描かれます。					
演目選択理由	「一休さんのとんち話」の原型であり、小学校の国語の教科書に掲載されたことのある、狂言の代表的な演目の一つです。 登場人物の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗を壊す時の擬音(効果音)の面白さ。 そして「附子」を食べってしまった二人の機智に富んだ言い訳に、思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。狂言の魅力がいっぱいにつまった作品です。 演者は能舞台という何もない空間の上で、附子や掛け軸、天目茶碗など、そこにはないものを、あたかも存在するように演技をします。そこには室町以来の伝統を受け継ぐ、厳しい稽古によって培われた型を要します。観客は多いに想像力を刺激され、何もない舞台は大きな広がりを見せます。 また手話狂言を実際に鑑賞してみると、古来からの研ぎすまされた型の演技に加えた、手話表現の多彩な魅力に気づかされることでしょう。狂言師が声を当てる演技をしますので、手話の知識がなくとも、観ているうちにだんだんと手話の内容が感覚的に理解できるようになるはずです。 わかりやすい言葉と、たのしい動きのある「附子」は、手話を理解する入門編としても最適な演目です。					
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	・お稽古(体験)の基本である「挨拶」から始めます。皆さんで「よろしく願います」と手話と声であいさつしましょう。 ・次に狂言の構え(姿勢)・運び(すり足)・台詞などお稽古して、狂言の初歩的な所作・発声などを身につけます。 ・事前のワークショップでおこなった手話の体験からさらに進んで、狂言の初歩的な所作・発声などを身につけます。 ・二手にわかれ、手話狂言の一場面の台詞の掛け合いを皆さんで演じるなど、理解を深めながら体験を進めます。 ・最後の挨拶も大事です。「有り難うございました。」と手話と声で挨拶しましょう。 ・狂言や手話についていろいろな疑問があると思います。丁寧にこたえてゆきますので、出演者に積極的に質問していきましょう。 (別添あり)					
出演者	・日本ろう者劇団 井崎哲也、江副悟史、五十嵐由美子、小泉文子、砂田アトム、廣川麻子、数見陽子、鈴まみ、長谷川翔平、今井彰人、田家佳子、清田真見、 ・狂言方 和泉流 三宅右近、三宅右矩、三宅近成、金田弘明 など、以上のうち8名。					
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 8 名 スタッフ: 4 名 合 計: 12 名		機材等 運搬方法		積載量: 2 t 車 長: 4.7 m 台 数: 1 台	

【公演団体名 日本ろう者劇団 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		2	時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時30分～11時30分	13時30分～15時	10分	15時～17時	17時
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		全校生徒			
	本公演		全校生徒			
ワークショップ 実施形態及び内容	狂言師とろう者劇団の俳優の進行によって、手話の様々な魅力にふれてもらいます。 ・手話にふれてみよう 手話の知識や歴史、魅力などを手話と音声によってお話します。まずは手話は何なのか知ることから始めましょう。 ・手話を学んでみよう 基本的な手話を皆さんで学んでみましょう。(例.1～9までの数字をつかった手話でどんな表現があるか楽しみながら知ってもらいます。) ・身体表現ワークショップ 手話を用いたさまざまな身体表現を用いて、聞こえる人・聞こえない人の垣根を越えた交流を体験しましょう。					
ワークショップ 実施形態の意図	本公演にて手話狂言を鑑賞する前に、まずは手話を様々な角度から理解し、実際に学んでもらい、身近に親しんでもらいます。 手話は、ろう者とのコミュニケーションツールに限らず、現代では様々な表現手段としても注目されています。 多様性を重視する社会の中で必要とされるコミュニケーション能力の向上だけでなく、手話表現に含まれる芸術性についても、実際に手話に基づく身体表現を体験してもらうことで、理解を深めてゆきます。					
特別支援学校での 実施における工夫点	声と手話、そこに通訳をつけることで、聞こえる聞こえないに関わらず、隔てなく一緒に楽しめるスタイルです。 全国の特別支援学校でのワークショップ実績が多数有ることから、学校ごとの詳細なリサーチを事前に実施することで、鑑賞者の多様な理解度と個性にあわせて、楽しみながら手話を、そして手話狂言を学んでもらいます。 ろう学校の場合は、ワークショップにおいて更なる手話狂言の高度な表現に取り組んでいただきます。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

演目概要

手話狂言 ぶす 附子



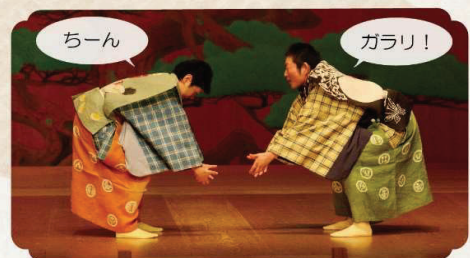
ご主人さまから留守番を言いつけられた
太郎冠者と次郎冠者。
主人は手桶を持ち出し
その毒氣にあたっても死んでしまうほどの猛毒
「附子」が入っているから
気をつけて番をするようにと言い渡します。

「附子」を前に二人は興味津々。
なんとか手桶の中を見ようとして
毒氣に当たらないように
扇であおぎながら「附子」に近寄り
手桶の蓋を開けました。



中に入っていたのは何と砂糖。
当時砂糖は大変な高級品なので
主人は二人に食べられないように
中身が「附子」だと嘘をついていたのです。
砂糖とわかってしまうと
たちまち二人は平らげてしまいました。

砂糖を食べてしまった言い訳をしようと
二人は何を思ったか、ご主人の大切にしていた
掛け軸やお茶碗などのお宝を
こわしてしまいます。
いったいご主人に
どんな言い訳をするのでしょうか？



二人の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、
掛け軸や天目茶碗をこわす時の擬音（効果音）の面白さ。また附子を食べってしまった機智に富んだ言い訳に、
思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。狂言の魅力がいっぱいに詰まった演目です。

手話狂言ワークショップ



狂言と手話狂言

狂言の一場面を、狂言と手話狂言それぞれで演じてみます。
「名乗り」「道行き」といった狂言の代表的な場面が、
どのように演じられるのか、同じ場面が手話狂言になると、
どのように表現されるのか、その違いを見比べてみましょう。

狂言の「笑い」



構えと運び

狂言の基本である、構え（姿勢）をみなさんに体験してもらいます。
美しい姿勢を身につけた後は、すり足で歩いてもらいます。

手話狂言のセリフ



セリフに挑戦

狂言のセリフを実際に声に出して言ってみましょう。
狂言師の後に続いて同じように大きな声で復唱します。
その後、同じ台詞を手話で演じてみましょう。

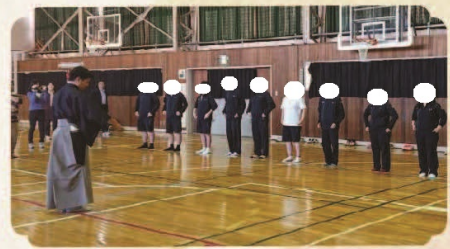


手話狂言を演じてみよう

最後に狂言の一場面を皆さんに演じてもらいます。
二つのグループに分かれて、狂言のセリフの掛け合いを、
手話で演じてみましょう。



少人数での参加例



大人数での参加例

狂言の基本的な所作や発声を体験するとともに、狂言を通して手話にも挑戦してもらいます。
手話について楽しみながら、学び、親しんでもらうことを目的とします。
そして手話は見る言語です。相手の顔をしっかりと見て表現してみましょう。

児童・生徒の共演、
参加又は体験の形態

聞こえる人も
聞こえない人も

手話狂言「附子」

日本ろう者劇団



社会福祉法人 トット基金
理事長 黒柳徹子

日本ろう者劇団のレパートリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにもかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」（1983 年）に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のここのように思えます。あれから、演目も少しずつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃると嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。そして、よろしくお願いします。

手話狂言とは



能楽について

わが国の代表的な伝統芸能である能と狂言は、およそ650年以上前、室町時初期に成立したもので、両者は合せて「能楽」(のうがく)という名称で呼ばれています。

近年、能楽は、舞台芸術として国内外で高い評価を得ており、2001年にはユネスコの世界無形遺産の一つに選ばれています。

狂言について

狂言は「笑い」の劇です。

能とは対照的に中世庶民社会の日常や民間説話を素材として、普遍的な人間像を描き出しています。

洗練された骨太の芸は、和やかな楽しい笑いをもたらしてくれます。



手話狂言

狂言のセリフは室町時代から江戸時代までの古いことばです。昔から継承された狂言特有の動き、運びをそのままに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作ることにつとめました。手話のセリフと声のタイミングや間の取り方にも工夫を重ね、古典芸能の強靱さと、手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生したのです。狂言の台詞を、手話と声の両方で、表情豊かに表現しますので、聞こえる人も聞こえない人も共に楽しむことができます。



手話狂言 附子



「附子」を前に二人は興味津々。
なんとか手桶の中を見てみよう
毒気に当たらないように
扇であおぎながら「附子」に近寄り
手桶の蓋を開けました。

ご主人さまから留守番を言いつけられた
太郎冠者と次郎冠者。
主人は手桶を持ち出し
その毒気にあたってもしちゃうほどの猛毒
「附子」が入っているから
気をつけて番をするようにと言い渡します。



砂糖を食べてしまった言い訳をしようと
二人は何を思ったか
ご主人の大切にしていた
掛け軸やお茶碗などのお宝をこわしてしまいます。
いったいご主人に
どんな言い訳をするのでしょうか？

中に入っていたのは何と砂糖。
当時砂糖は大変な高級品なので
主人は二人に食べられないように
中身が「附子」だと嘘をついていたのです。
砂糖とわかってしまうと
たちまち二人は平らげてしまいました。



二人の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗をこわす時の擬音（効果音）の面白さ。また附子を食べってしまった機智に富んだ言い訳に、思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。狂言の魅力がいっぱいにつまった演目です。

手話狂言ワークショップ



狂言と手話狂言

狂言の一場面を、狂言と手話狂言それぞれで演じてみます。
「名乗り」「道行き」といった狂言の代表的な場面が、
どのように演じられるのか、同じ場面が手話狂言になると、
どのように表現されるのか、その違いを見比べてみましょう。

狂言の「笑い」

はっ
はっ
はっ
は



構えと運び

狂言の基本である、構え（姿勢）をみなさんに体験してもらいます。
美しい姿勢を身につけた後は、すり足で歩いてもらいます。

手話狂言のセリフ

このあたりのものでござる



セリフに挑戦

狂言のセリフを実際に声に出して言ってみましょう。
狂言師の後に続いて同じように大きな声で復唱します。
その後に、同じ台詞を手話で演じてみましょう。



手話狂言を演じてみよう

最後に狂言の一場面を皆さんに演じてもらいます。
二つのグループに分かれて、狂言のセリフの掛け合いを、
手話で演じてみましょう。



少人数での参加例



大人数での参加例

狂言の基本的な所作や発声を体験するとともに、狂言を通して手話にも挑戦してもらいます。
手話について楽しみながら、学び、親しんでもらうことを目的とします。
そして手話は見る言語です。相手の顔をしっかりと見て表現してみましょう。

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	D56	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	ブロック	D	区分	A区分
公演団体名	日本ろう者劇団				制作団体名	社会福祉法人 トット基金			

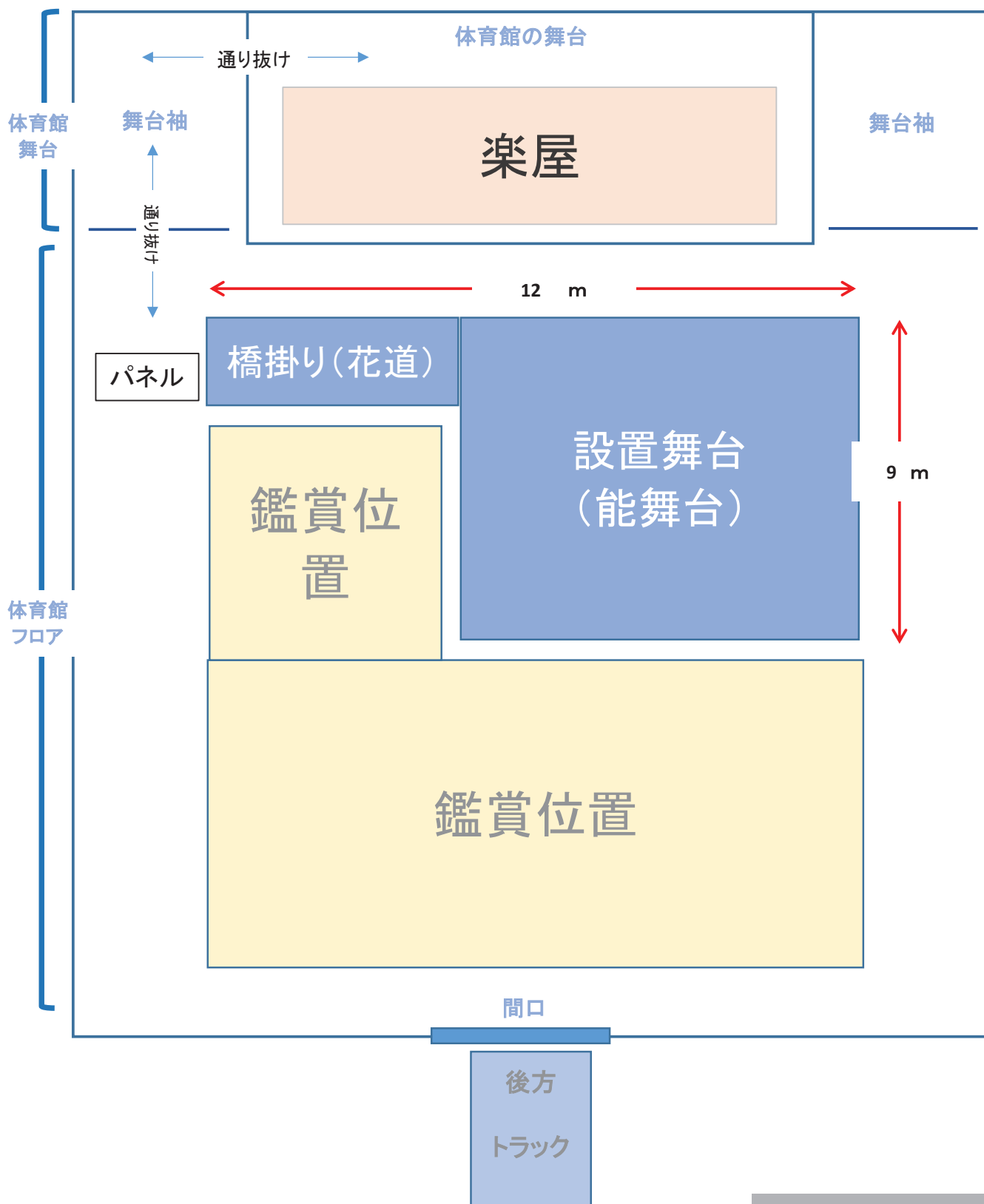
① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談
控室について	必要数 *	不要	条件					—
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *		2tトラック	1台	乗用車	3台	可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細		乗用車は近隣のコインパーキング等に駐車することも可能です。				/	
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ		2tトラック 長さ4.7m、幅1.88m、高2.28m				可	
	搬入車両の横づけの要否 *		要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離 *		問わない				可	
	搬入経路の最低条件		・できる限り階段のない経路が望ましい。 ・屋根のある経路が望ましい。				可	
	理由		・能舞台の搬入をするため。 ・雨天の際に能舞台、道具・装束等が濡れないようにするため。				/	
	設置階の制限 *		問わない				可	
	搬入間口について 単位:メートル	幅	2m		高さ	2m		可
	WSIについて	参加可能人数		全校生徒				可
学年の指定の有無 *		なし	指定学年 *	低学年		中学生		可
所要時間の目安 単位:分		90分程度				可		
会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。				/		
本公演について	鑑賞可能人数		全校生徒				可	
	舞台設置場所 *		ステージ上への設置・フロアへの設置ともに対応可能				可	
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	12	奥行	9	高さ	指定なし	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *		要				可
		舞台袖スペースの条件 *		下手側				可
		緞帳 *	不要		バトン *	不要		—
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				—
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *	不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。			—	
		ピアノの事前調律 *	不要			—		
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *	格納されていれば可			可		
	公演に必要な電源容量		30A	※主幹電源の必要容量			可	
	その他特記事項							応相談
	午前中の公演実施の場合、前日の仕込みをご相談させていただきます。							可

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	2m	高さ	2m
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



フロア使用時

搬入間口について	幅	2m	高さ	2m
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

